

# 人工股関節置換術を知ろう

じん こう こ かん せつ ち かん じゅつ

## 股関節の痛みを取り除き アクティブな生活をおくるために



股関節のしくみと役割は? .....2

股関節のしくみ

股関節を痛めると

人工股関節とは?

主な股関節の障害 .....4

変形性股関節症(へんけいせいこかんせつしょう)とは

関節リウマチとは

手術を受ける前に確認しよう .....6

症状を見極める

全身の健康もチェック

入院前から手術まで .....8

入院前には

手術では、こんなことが行われる

手術後の後療法を大切に .....10

手術直後の処置は?

手術後の患者さんの状態は?

リハビリテーションは積極的に .....12

手術後の状態を確認してからスタート

リハビリテーションの例

さあ、退院しましょう .....13

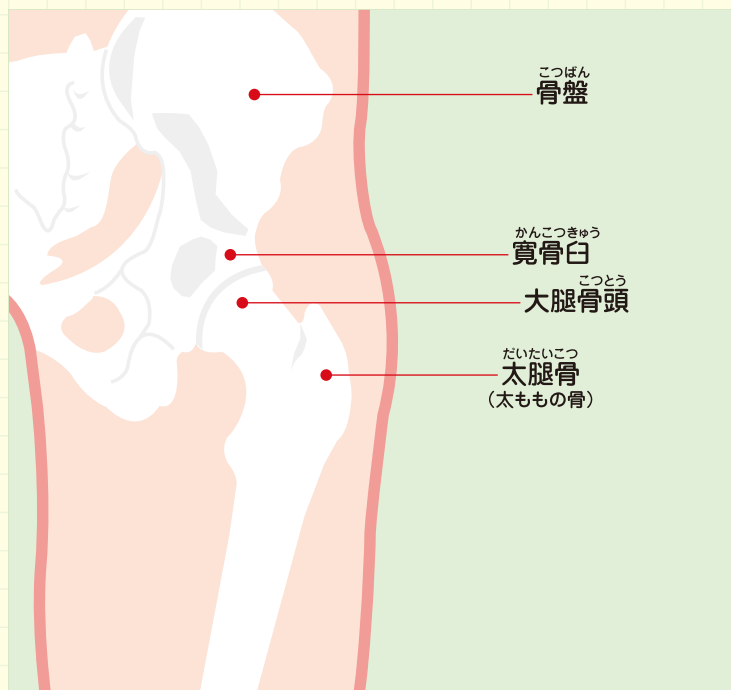
# 股関節のしくみと役割は？

股関節は、骨盤<sup>うす</sup>の臼<sup>かんこつきゅう</sup>のような寛骨臼と太ももの骨<sup>だいたいこつ</sup>（大腿骨）の先端にある球形の大腿骨頭<sup>こつとう</sup>が組み合わさってできていて、私たちが歩いたり、走ったりするときに、身体を支えています。その動きはとても複雑で、力を吸収するクッションのような役割を果たし、足をひねる運動（回旋運動<sup>かいせん</sup>）もできるようになっています。

## 〔股関節しくみ〕

股関節は、大腿骨の骨頭が、受け皿となる寛骨臼に入り込んでできています。関節には、関節軟骨という特別な軟骨が入っていて、力を吸収するクッション役を担っています。

また、股関節は、他の関節と比べても、その役割は多様で、大きな動きができる関節です。前後左右、回旋運動などができ、さらに脚の位置を調整し、立っているときの身体バランスを維持する役割も持っています。そのため、そのつくりはとても不安定ですので、股関節だけでなく、周囲にある筋肉やじん帯などが、ぐらつきを抑え、動きを補っているのです。



## 股関節を痛めると

日頃から私たちは、立ったり、座ったり、歩いたり、走ったりして、意識することなく股関節を使っています。しかしながら、もともと複雑な動きをしている箇所ですから、知らず知らずのうちに痛んでしまうこともあります。

股関節が故障すると、痛みを伴うことはもちろん、これまでできていた何気ない行為が苦痛になり、下半身は安定せず、日常生活に大きな支障をきたしてしまいます。

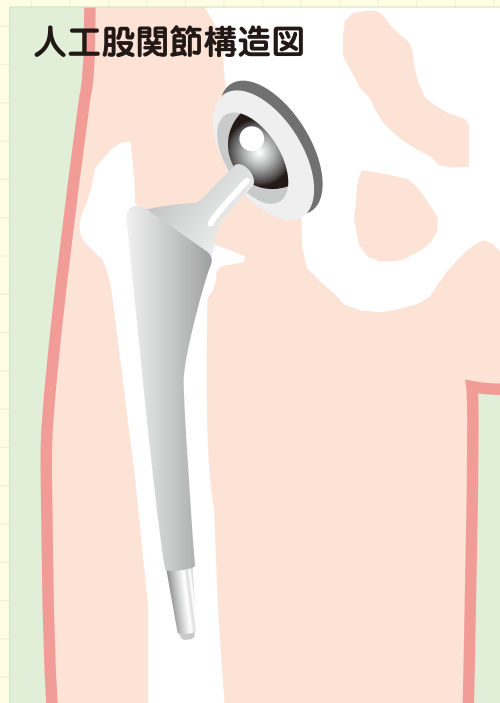
また、ひどい場合には、「へんけいせいこかんせつ変形性股関節症しょう」や「リウマチ関節リウマチ」などによって、股関節全体を変形させてしまう障害になってしまうこともあります。これらの治療に大きく役立つのが人工股関節です。



## じんこうこかんせつ人工股関節とは？

人工股関節は、特殊な金属やセラミックスなどでつくられていて、痛んだ股関節に代わって、患者さんの身体を支えてくれます。一般的に耐用年数は15～20年で、60～65歳以上の方が対象となります。大きさや機種など、患者さんに適したものを選んで使用します。

### 人工股関節構造図



## 人工股関節を使う利点

### ■踏ん張っても痛くなくなる！

変形した関節部分を人工股関節に置き換えることで痛みがなくなります。これまで外出を躊躇していた人も、安心して外出できるようになり、生活そのものが豊かになります。

### ■動きがよくなる！

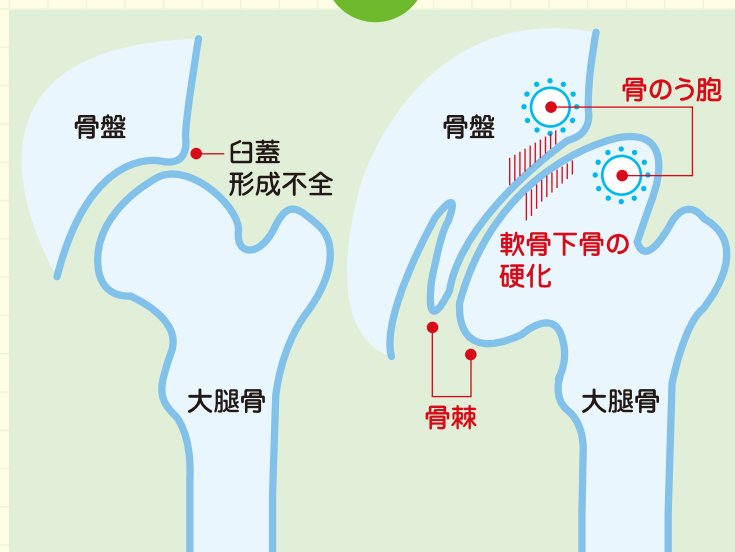
動かしづらかった関節の動きも改善されます。

# 主な股関節の障害

## 変形性股関節症とは

健康で正常な股関節は、歩いたり、ひねったりするとき、関節軟骨がクッションとなり痛みを生ずることはありません。しかし、若いときには柔らかく滑らかだった軟骨も、加齢によりだんだん硬くなり、クッションの効果が失われてしまうことがあります。その結果、ひどい場合には軟骨が擦り減り、骨がこすられて痛みを生じてしまいます。これが、変形性股関節症です。お薬などでも治療が可能ですが、症状がひどく日常生活に支障がある場合などは、人工股関節置換術が必要となります。変形性股関節症は、50歳前後から増加し、70歳代後半がピークとなります。また、どの年齢層においても女性の方が多いとされています。

### 変形性股関節症



- ① 軟骨の下の骨が硬くなってくる
- ② 骨にとげができてくる

## 関節リウマチとは

関節リウマチは、股関節の潤滑油ともいうべき関節液をつくる滑膜かつまくが炎症を起こすことから、痛みや腫れを引き起こすもので、症状が悪化すると骨が変形してしまう場合もあります。治療は、お薬や注射を使って、全身的に行うことが重要ですが、関節が壊れてしまうなど症状がひどくなった場合には、人工股関節置換術をおこないます。

### 関節リウマチ



- ① 関節全体が狭くなり、凹凸ができてくる
- ② 骨が弱くなってくる

### 人工股関節置換術は

人工股関節術は年間に数万件行われている手術で、手術を受ける患者さんのうち、変形性股関節症と関節リウマチが原因となっているのが、全体の90%以上を占めています。また、男性よりも女性に多く見られます。



# 手術を受ける前に確認しよう

## 〔 症状を見極める 〕

人工股関節を使用する最大の目的は「日常生活に支障をきたす痛みを取り除くこと」です。たとえば、強い痛みがあったとしても、投薬などでよくなる場合もありますし、変形があった場合でも、痛みがないこともあります。

手術が必要なのは、特に痛みがひどく、日常生活に支障がある場合です。知識の豊富な専門医や病院スタッフとよく相談し、手術を受けるかどうかを決定しましょう。



### 入院前の生活

入院する前は、これまでの日常生活を大きく変える必要はありません。医師や看護師に相談し、準備を整えてください。

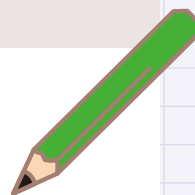
## [全身の健康もチェック]

人工股関節置換術は、身体に大きな負担がかかります。ですから、ほかの疾患があったり、薬を服用している場合などは、手術が行えるかどうか、よく調べることが重要です。特に心臓や腎臓、肺などの内臓に疾患がある場合は、症状を踏まえた判断が必要となります。

服用中の薬（薬店で購入したものなども含む）がある場合は、すべて担当医、看護師にお見せください。これはとても重要なことで、薬によっては、麻酔と一緒に服用してはいけないものもあります。また、出血を増やす恐れのあるものもあります。手術中の危険を回避するためにも、現在の自分の状態を詳しく伝え、よく相談した上で、手術ができるかどうか、決定しましょう。

### 入院時に必要となるもの

- 洗面用具
- 下着
- ねまき（パジャマ）
- バスタオル
- 上履き・リハビリ用シューズ
- 湯のみ・箸



※病院によって必要になるものは異なります。

# 入院前から手術まで

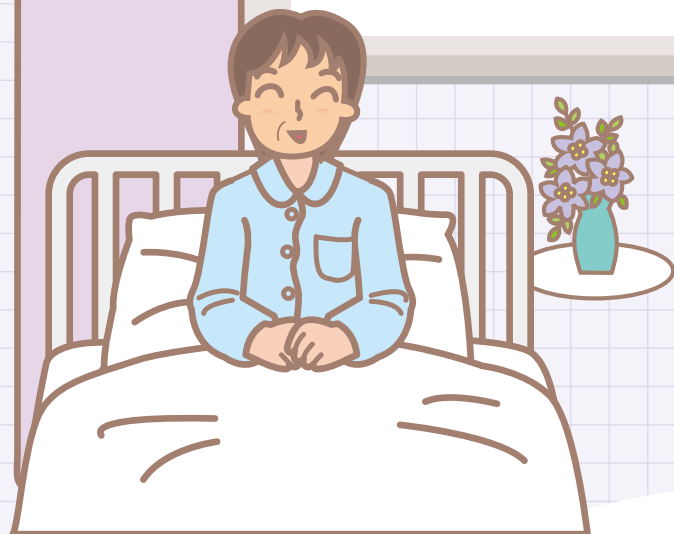
## 〔 入院前には 〕

入院前には、担当医による問診や、X線、心電図、血液などの検査があります。これは手術を万全に行うため、さらに手術前には手術や麻酔に関する説明があります。患者さん、ご家族を含めて行いますので、わからないこと、心配なことなどを、お話ください。

特に、関節リウマチでステロイド剤を服用している人や糖尿病などで血糖値の高い人は、必ず担当医にお話してください。また、あらかじめ患者さんの血液を採取することもあります。これは輸血が必要となった場合に、その血液を輸血するた<sup>じこけつゆけつ</sup>めで、これを自己血輸血と呼んでいます。

### 手術前は

手術前は、これまでの生活を特に変える必要はありませんが、できるだけ規則正しい生活をしましょう。また、身体の変調があった場合は、必ず担当医や看護師に相談してください。特に発疹や手術個所のケガなどは、状態によっては手術ができないこともあります。安心して手術を受けるためにも、体調の変化を見逃さないことは、とても重要なのです。





## 〔手術では、こんなことが 行われる〕

手術当日は、患者さんを手術室にお連れし、次のような手順で手術を行います。

### ①麻酔

多くの場合は、全身麻酔によって行われます。

### ②切開

切開する方法は、いくつかありますが、多くの場合、股関節のやや外側を切開します。

### ③骨の切除

股関節の変形状態をよく確認した後、使用する人工股関節の形状に合わせて、寛骨臼の中や大腿骨を専用の器械を使って削っていきます。その後、人工股関節と同じ形をしたテスト用の部品を合わせ、正しく骨が削られていることを確認し、実際の人工股関節を入れていきます。

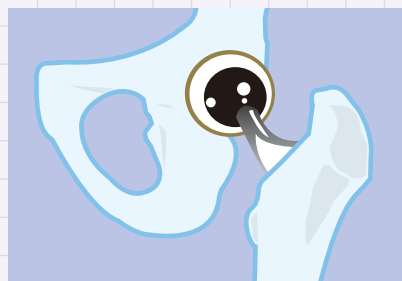
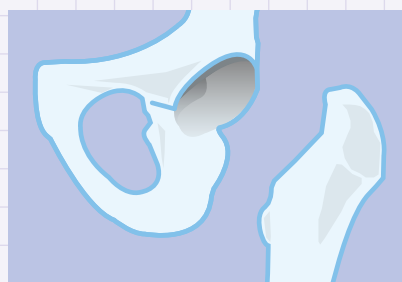
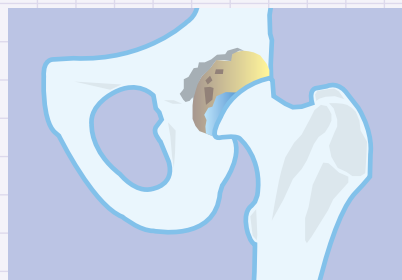
### ④固定

金属製のスクリュー（ねじのようなもの）、もしくはセメント（金属と骨のすきまをうめ、固着させる）を用いて人工股関節を固定します。ここで、動作の確認も行います。

### ⑤終了

関節内を洗浄してから縫合します。手術の後、血液が関節内にたまらないようにチューブを挿入しておきます。麻酔がある程度覚めたら、手術は終了です。

※手術時間は、患者さんの状態によって異なります。



# 手術後は、後療法を大切に

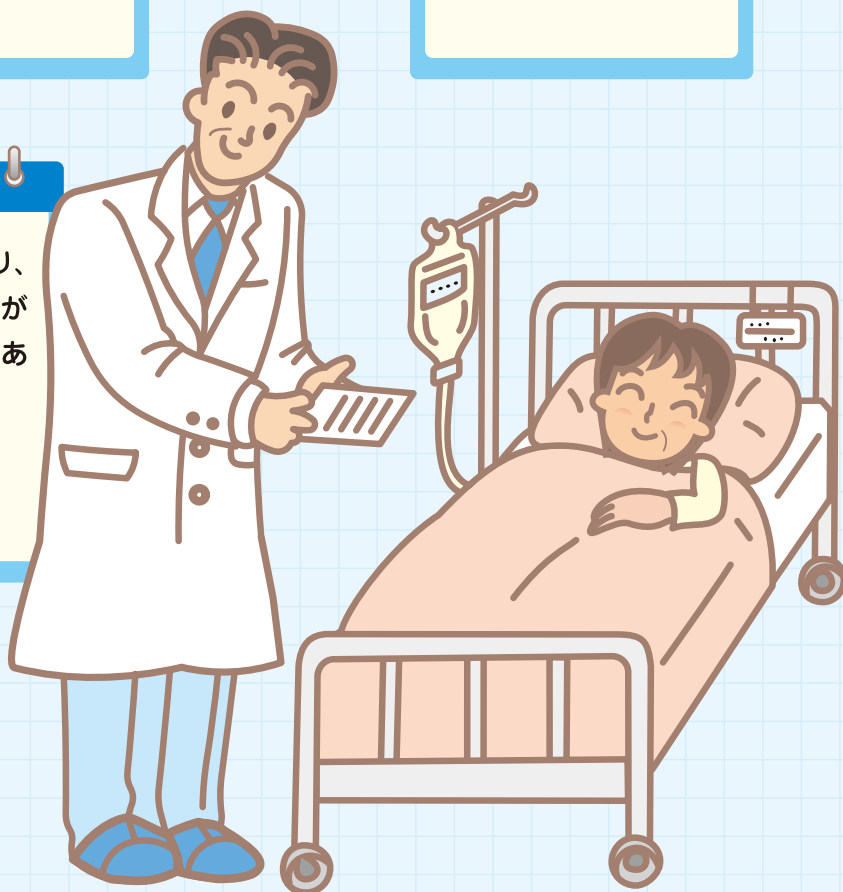
## 手術直後の処置は？

手術が終了すると、病室に移動しますが、患者さんの状態を確認しながら、さまざまな対応をしていきます。

チューブから出る出血の量を測定したり、血圧を測ったりするなど、状態が安定するまで頻繁に対応します。

患者さんの状態を正確に把握するため、しばらく、心電図をつけておくことがあります。

出血量を確認したり、血液検査を行いながら、輸血することもあります。



## 手術後の患者さんの状態は？

手術直後は、痛みがでることは避けられません。そこで、注射や点滴、座薬などで痛み止めを投薬することがあります。痛み止めを使ったとしても、多少の痛みを感じることもありますので、痛みが和らがない、何か気になることが起こったときなどは、遠慮なく看護師にお申し出ください。手術翌日には、痛みはだいぶ治まってきます。

手術直後は、発熱することがありますが、通常は、次第に下がっていきます。

股関節に入れていたチューブは、2～3日で外すことになります。患者さんの状態を確認しながら決定していきます。

からだの向きを変えるときに、両足の間に枕を入れる場合があります。これは、関節が脱臼しないように、足を正しい位置に保っておくためのものです。

## 入院期間につきまして

患者さんの状態や年齢、本人の意欲などによって異なりますが、通常は2～6週間です。

# リハビリテーションは積極的に

## 手術後の状態を確認してからスタート

リハビリテーションは、患者さんの術後の経過をよく観察し、股関節や全身の状態を慎重に見極めてから行います。

まずは、ベッドの上でできる簡単な運動からスタートし、患者さんの状態を確認しながら、少しずつ負担のかかる運動に移行していきます。平均的に、手術後3日目で病室内の歩行が可能になり、その後は1週間毎に平行棒や歩行器などを使って運動を進めていきます。手術後4週間を経過すると、普通の歩行が可能になり、さらに階段の昇降運動なども行って、退院後の日常生活がスムーズに行えるようにしていきます。

## リハビリテーションの例

### ① 股関節周辺の筋肉を鍛える「筋肉強化訓練」

股関節の周囲の筋肉を鍛えながら、筋肉を回復する運動です。股関節に力を入れて伸ばす運動や股関節を伸ばしたまま脚を持ち上げる運動などがあります。

### ② 歩行訓練

歩行器や平行棒を使って歩く運動を行います。その後、松葉つえや一本つえなどの練習を行い、場合によっては階段の昇降運動なども行います。

## 手術後の脱臼予防について

人工股関節は、動きによって脱臼する場合があります。股関節の周囲の筋力がつき、新しい関節が安定するまでは、日常生活でも、十分注意してください。また、禁止されている動きもあります。手術の方法や人工股関節の状態、また、患者さんの骨格などによっても脱臼しやすい方向が異なりますので、医師によく確認してください。

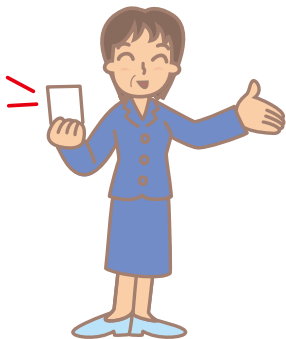


## 定期健診の記録

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |
| 次回来院 | 年 | 月 | 日 |

## 重要事項記入欄

|           |   |   |   |
|-----------|---|---|---|
| ◎治療・手術の記録 |   |   |   |
| 患者氏名      |   |   |   |
| 手術日       | 年 | 月 | 日 |
| 手術側       | 右 | 左 |   |
| 人工関節      |   |   |   |

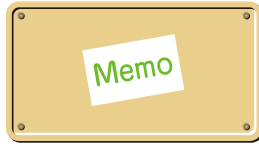


### 証明証につきまして……………▶

人工関節は金属製ですので、空港などの金属探知機に反応する可能性があります。必要ならば、退院時に担当医までご相談ください。



見本



A series of horizontal dashed green lines for writing a memo.

お問い合わせは